

丈夫がいいね

じょう

ぶ

日本人の四分の一が発症しているとされる花粉症。患者数は年々増えているが、発症率はスギが多いはずの山間部より、都市部の方が高いといふ。なぜだろう。

・排ガスの影響

一〇〇三(平成十五)年のスギ花粉症有病率は都市部で33・8%、山間部で26・7%となつている。スギ花粉に反応する抗体を持っている人で花粉症を発症している人の割合は都市部で60・2%、山間部で48・2%。都市部で生活している人

● 都市部に多い理由

染、食生活や衛生状態の変化、ストレスなどが関係しているという。

大気汚染は、ディーゼルエンジンの排出ガスの微粒子など空気中の化学物質が、アレルギーに影

の方が花粉症にかかりやすいことが分かる。

金医学系公衆衛生学の中村裕之教授によれば、都市部に花粉症患者が多い理由には大気汚

響していると考えられており。大気汚染を引き起

こしていいる化学物質への接觸が多ければ、花粉症

衛生環境の変化も花粉症の増加の一因となつて

いる。アレルギーは過剰

な免疫反応によって起

る。体内の免疫は主に感

染症に関与するものと、

衛生状態もよくなつた。

その一方で、人は抵抗力

を失い、アレルギー症状

が増加した。「文明病」

とも言える花粉症。症状

を和らげるには、文明に

の二つがある。戦後、

アレルギーに関与するも

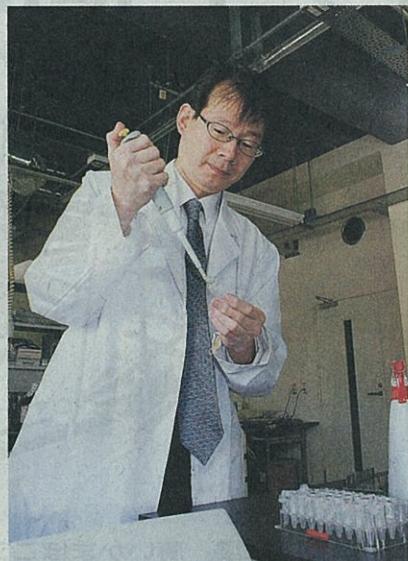
の二つがある。戦後、

衛生状態が向上し、感染

症を引き起こす菌などに

必要があるのだ。

■ 776



花粉症と環境の関係について研究する中村教授
■金大宝町キャンパス
食品やレトルト食品を食べる機会が増えたことで、アレルギーを持つ人が増加した。
中村教授は「環境を戻すことはできません。花粉症を発症しないようにするために、子どもたちから花粉や化学物質を避けることが大切となります」と強調する。
生活は便利になった。衛生状態もよくなつた。その一方で、人は抵抗力を失い、アレルギー症状が増加した。「文明病」とも言える花粉症。症状を和らげるには、文明に接觸する機会が少なくなつたため、アレルギーに関与するもの、花粉症などが増えたというのである。

・接觸を避ける

第18部 花粉症の季節

暮らしの変化に起因

になる条件が整いやすくなってしまう。中村教授によると、都巿部では、花粉 자체にも空気中の化学物質が付着していく、症状が出やすくなるという。

市部では、花粉自身にも空気中の化学物質が付着しておらず、症状が出やすくなる。アレルギーに関与するもの、二つがある。戦後、衛生状態が向上し、感染症を引き起こす菌などに必要があるのだ。